

シンポジウムのねらい  
＝ESD・地域・文化・大学＝

阿部治

# ESDとはなにか

(Education for Sustainable Development)

- 持続可能な社会づくりの担い手を育てること。
- 持続可能性(サステナビリティ)を教育・学習の中心に据えること。
- 人と自然、人と人、人と社会の関係を時間・空間を越えてより良い関係に変えていく学び。  
3つの公正(世代内、世代間、種間公正)
- 多様なステークホルダーをつなぐ装置である。
- 国連ESDの10年(2005－2014)

# 劇場と大学の連携：事例

- 国立文楽劇場×関西学院大学 2010
- 大阪市立大学文学部特別授業「上方文化講座」2004

- 人形浄瑠璃 ユネスコ無形文化遺産(2008)

地域の素材を学問の対象、すなわち研究・教育(授業や講座、学生の観劇)として扱っている。

# 劇場と大学の連携：事例

- わらび劇場(わらび座) × 秋田県立大学 2007
- わらび劇場(わらび座) × 秋田大学 2008

東北・秋田という地域に根ざす産業、資源、伝統文化(芸能)を基盤とした連携。農村の有効活用など。

- 長野市民会館(長野市) × 東京藝術大学  
2011

# 劇場と大学の連携：事例

- 彩の国さいたま芸術劇場 × 埼玉大学
- せんがわ劇場（調布市／地域連携事業） × 桐朋学園芸術短期大学
- トーキョーワンダーサイト × 青山学院大学（社会学連携研究センター）

# 地域づくりとアート

- 越後妻有 大地の芸術祭アートトリエンナーレ
- 瀬戸内国際芸術祭(直島アートプロジェクト、他)

現代美術による非日常空間の創出

過疎地の活性化

参加・協働

# 地域を創り、人をつなぐ文化の事例

- 過疎からの脱却

鹿児島県鹿屋市柳谷集落

迎賓館(空家の活用) 芸術家の移住

「文化は地域の宝、文化がなければ地域がつぶれる」

(豊重氏)

- 震災復興/除染に向けて連帯する市民

いわき芸術文化交流館/アリオス

「市民が結びあうこと、助け合うこと、支えあうこと、そういう人生を送っていくための『道具』としての文化施設」

(大石氏)

# 鹿児島県鹿屋市柳谷集落(やねだん)

典型的な過疎集落(130戸) 08年から人口増に変化

若い公民館長(区長)の出現で劇的に変化

補助金に頼らず住民手作りで地域づくり

迎賓館(空家の活用) 芸術家の移住

土着菌センター

からいも栽培によるオリジナル芋焼酎造り・販売

住民による施設の手作り(緊急警報装置(集落放送)、  
未来館(そばや)、歴史館、寺子屋など)

収益を住民に還元(ボーナス)

やねだん故郷創生塾



# 池袋西口まちづくり関連事業

- 豊島まちづくりバンク
  - ゼファー池袋まちづくり
  - アイポイント(地域通貨)
  - 池袋モンパルナス
  - まちなかカフェ
  - ふくろ祭り
  - フォーク&カントリーー野外ライブ
  - 古本まつり
  - ……
- ー過性のイベントから定着した文化へ

# 芸術劇場と立教大学の連携

- アートというよりは演劇＋音楽
- 教育・研究の対象というよりは文化の共創・協働
- 屋内から屋外(地域)へ
- 組織内の資源の活用のみでなく地域に内在する資源の活用
- 地域住民(居住者、通勤者)の参加(風土の人)
- 住民(通勤・通学者)の誇り/アイデンティティー/地域愛
- 地域の多様な資源(多様性)
- 単体同士のつながりにとどまることなく、地域を巻き込む協働/共創

⇒池袋西口文化の創造に貢献